

TOYAMA DESIGN COMPETITION 2022

株式会社タカギセイコー 企業テーマ

『プラスチックをいかす』

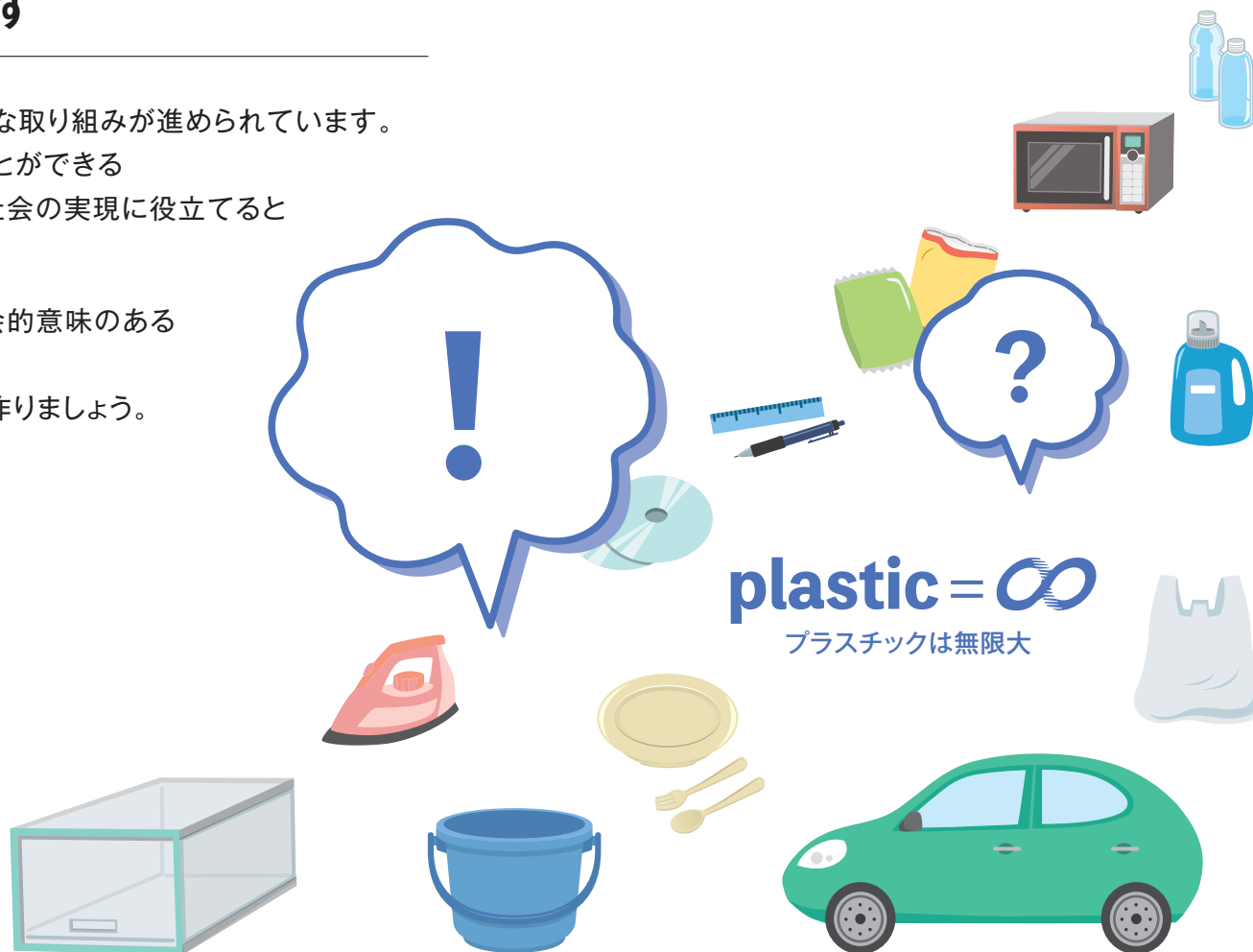
～プラスチックの新しい可能性を生み出すデザイン～

プラスチックの可能性を引き出し、 社会に必要とされる新発想の製品アイデアを募集します。

企業テーマ：プラスチックをいかす

近年、世界的にも「脱プラスチック」に向けたさまざまな取り組みが進められています。
しかしプラスチックは、使用目的や用途に合わせることができる
優れた素材であることから、活用次第で持続可能な社会の実現に役立てると
私たちは考えます。

その考えを具現化し、社会課題の解決に結びつく社会的意味のある
製品アイデアを求めます。
未来に貢献する新発想のプラスチック製品を一緒に作りましょう。



プラスチックの課題と可能性

プラスチックを原因とする地球温暖化や海洋マイクロプラスチックによる環境汚染などの問題が注目されています。しかし、トウモロコシやサトウキビなど植物由来の原料を利用して作られるバイオマスプラスチックは、燃やす際も二酸化炭素が出ますが、原料である植物は育つときに光合成で二酸化炭素を吸収するため、大気中の二酸化炭素の増減に影響を与えません。このような考え方は「カーボンニュートラル」と呼ばれ、近年注目されています。

次世代に向けた取り組み

プラスチックの可能性を拓く事業活動を積極的に展開しています。

- 痛みが少ない「針無し注射器」の部品生産
- 環境にやさしく、軽量・高剛性・低膨張率等の機能を備えた新素材「セルロースファイバー複合材料」の研究
- 高精度金属インサート成形技術「ハイブリッド・電気自動車向け給配電部品」の効率生産を実現
- カーボンニュートラルへの対応
実現に向け次世代自動車向けの製品を開発・量産展開中

Topics /

社団法人プラスチック成形加工学会より「青木 固 技術賞」を受賞



社団法人プラスチック成形加工学会の最も名誉ある「青木 固 (あおきかたし) 技術賞」を受賞しました。この技術には当社の「TS高速スタンピング成形システム」が活用されており、今後の日本のものづくり技術に大いに貢献することが期待されています。

当社の技術紹介

回転成形

- ・ 大きな中空品をシームレスに作れる
- ・ 形状の自由度が比較的高い
- ・ 着色原料することで塗装にはないデザインが可能
- ・ 多品種小ロットに向いている
- ・ 最大400Lサイズの容器まで対応可能



繊維強化複合素材 (FRP) 成形技術

- ・ 金属より軽く高強度な製品が実現可能
- ・ 独自のオートメーションラインにより大量生産可能
- ・ CFRPTP/GFRPTPなど多種多様な材料に対応可能



RIM成形技術

- ・ 大きな製品を低コスト(低投資)で製作可能
- ・ 独自の塗装技術による美しい外観



当社の特徴

お客さまのニーズを的確に捉える、開発先行型企业

お客さまから引き受けた仕事に対しては創意工夫を持って粘り強く取組み、何があっても最後までやり遂げるマインドがあります。また、積極的に事業領域の拡大や新技術開発を行っており、金型の製作から塗装や組立といった2次加工まで自社で対応できる体制を構築することができました。プラスチックの成形に関してはありとあらゆる成形技術、生産設備を保有しています。お客さまからの“プラスチックでこんなもの作りたい”という願い事に対しての対応力、提案力には自信があります。

当社の課題

無限の可能性への挑戦、信頼される「100年企業」を目指して

プラスチックの風当たりが強い状況です。そのような状況だからこそ、タカギセイコーよりプラスチックの新しい存在価値を打ち出し地位向上に貢献したいと考えています。お客さまから引き受けた仕事を通じてだけではなく、タカギセイコー自ら社会課題を探索し、ビジネスを通じて社会課題の解決に貢献したいと考えています。

企業概要

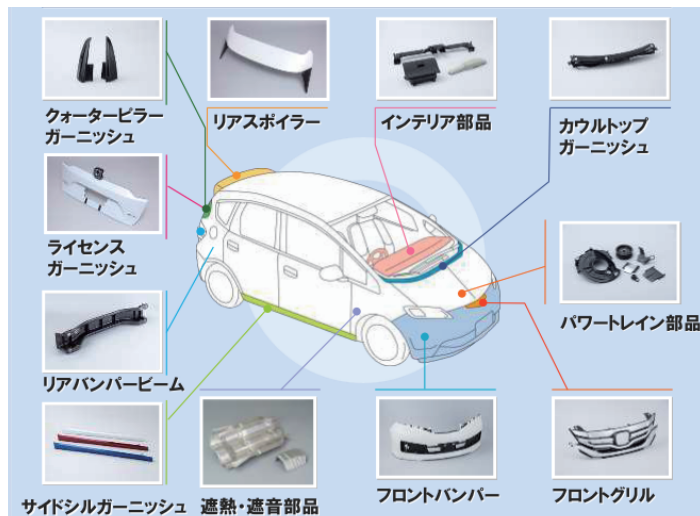
私たちタカギセイコーは、1949年に日本で初めて紡績部品のプラスチック化に成功した、業界では先駆けの開発メーカーです。

その後も、日本の基幹産業である自動車、精密機器など多岐にわたる製品で、プラスチック化を実現。現在では車両事業を柱に、業界をリードする高度な技術力と、部門を超え互いに協力できる支援体制で、お客さまに幅広い技術を提供しています。

社名	株式会社タカギセイコー
創業	1931年4月 高木漆器店開業
設立	1959年8月 (株)高木製作所設立
本社	富山県高岡市二塚322番地の3
代表者	代表取締役社長 高木 章裕
事業内容	プラスチック製品およびその金型の製造

主力製品

射出成形法で製造された外装部品が大部分を占めています。外装部品は外観特性が求められる為、成形後塗装を行いお客さまに納品しています。当社では、大きな製品を安定した品質で大量生産できる設備および技術を保有しており、これが特徴の一つとなっています。



History

1940~ ● 当社プラスチック事業の出発点

創業者となる高木作次郎は漆器職人として真加工をしている中、漆器は複雑な工程を経て作られおり、それが漆器独自の良さを生み出していると感じてきたが、逆に量産できないという欠点も感じていました。そこで作次郎は合成樹脂(ペークライト)に着目し、これを利用することにより長年の懸案を解決できると確信し研究開発を進め合成樹脂漆器の開発に成功しました。これが当社プラスチック事業の出発点となっています。

1946~ ● コレクターのプラスチック化

当時、紡績会社では製造設備に金属や陶器を採用していたがコストや耐久性に課題がありました。プラスチックは、安くて摩耗し難く大量生産が可能という特徴をもっていた為、採用に向け研究開発を進めコレクターのプラスチック化に初めて成功し工業用製品のメーカーとして第一歩を踏み出しました。

1959~ ● 時代にマッチした製品を手掛け成長

常に時代にマッチした製品をいち早く手掛け成長してきた歴史があります。現在は、自動車部品が売上の大部分を占めていますが、リーマンショック後は成長が鈍化している状況です。近年、カーボンニュートラルへの対応として次世代自動車関連の製品開発を進めており当社事業の柱に育てるべく研究開発を進めています。

1979~ ● バイクブーム

プラスチック製燃料タンクやカウルなどのシェア拡大し、バイク部品の売上で急成長を実現する。

1987~ ● プリンターの普及

複写機、プリンターのカバー、トナーケース等(OA機器)の売上でさらなる成長を実現する。

2003~ ● 海外進出

海外市場に可能性を感じ海外進出を実現する。

2005~ ● 携帯電話(ガラケー)の普及

ガラケー携帯の筐体売上で急成長を実現する。

2008~ ● 自動車部品

リーマンショック以降売上の中心は自動車部品。



当社について詳しくは
ホームページをご覧ください